

北海道森林管理局等の職員を対象に業務研修を実施しました。

令和 5 年 8 月 24 日

北海道らしからぬ暑さが続く去る 7 月 26 日に北海道森林管理局からの協力依頼のあった北海道森林管理局の若手職員 28 名及び市町村新規担当職員 8 名を対象とした業務研修を実施しました。

室内講義では、大塚育種技術専門役より「林業種苗の現状について」と題し終戦後～高度経済成長期～現在に至る造林及び苗木生産の推移、苗木の生産の状況を紹介しました。

その後、優良品種の確保の必要性和、そのための種苗行政制度解説、北海道内の採種園の整備状況や活用状況、認定特定増殖事業者による民間のクリーンラーチ採種園造成についての取組等の説明を行いました。

続いて、加藤育種課長による「林木育種事業の概要、北海道の育種事業の現状と森林総合研究所林木育種センター北海道育種場の紹介」と題した講義を行いました。

精英樹の選抜から循環選抜育種に向けた流れの説明や、北海道育種場の業務の中で大きな柱の 1 つである「次世代育種集団の構築及びエリートツリーの開発」に向けてどのような取組を行っているか等を説明しました。



室内講義の様子

その後、西岡遺伝資源管理課長による場内案内を行いました。

原種苗木での苗木の生産過程や、第1 遺伝資源保存園、第2 世代精英樹候補木育種素材保存園、第7 広葉樹育種素材保存園等の役割などを解説しました。



原種苗木等の見学



第7 広葉樹育種素材保存園の見学



集合写真

このような研修の受入れは、新型コロナウイルスの感染拡大以降久しぶりとなりましたが、森林管理局や市町村の職員の皆様に林木育種の意義や育種場の役割について理解を深めていただく良い機会となりました。

連絡調整係長